

被団協

● 発 行 所
被爆者連絡センター
札幌市白石区平和通
17 丁目北 6-7
北海道版　北海道ノーモア・ヒバクシャ会館内
TEL/FAX　011-866-9545

北海道被爆者連絡センター　ホームページ　http:// h-nomore-hibakusha.org　メール dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp

核兵器と人類は共存できない！

日本政府は核兵器禁止条約に参加を
今月末開催の再検討会議に出席を

核抑止は大間違い！

いま世界は激動しています。ロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・ガザの戦い、米国とイスラエルによるイランへの武力攻撃など、終わりが見えません。

核兵器が戦争の抑止力だとはとんでもありません。核兵器の保有は戦争を起こし激化させる道具になっているばかりか、実際にいつ使われるかわからない状況にあります。核兵器の開発や保有を制限する国際的な条約も次々と失効しています。

そんな中、希望は２０２１年に国際法として発効した核兵器禁止条約です。核兵器の使用は勿論、開発も所有も威嚇も禁止しているのです。参加する国と地域が国連加盟の過半数を超え、１０１か国に達しました。

11 月 30 日から第１回の核兵器禁止条約の再検討会議が開かれます。唯一の戦争被爆国日本は、条約への参加はおろか、そっぽを向きつづけています。そして非核三原則や憲法の改正すら言い出し、他国攻撃能力を持つミサイルまで持つ始末です。まずは再検討会議に出席を！

被団協全国代表者会議開かれる

日本被団協は 10 月７日結成 70 周年記念式典を行い、８日全国代表者会議を開きました。北海道からはオブザーバーで金子廣子さんが参加しました。

全国代表者会議では、高齢化の中今後日本被団協、各県被団協をどうするかが話し合われました。核兵器の非人道性を訴えてきた被団協の名を消してはならないとの意見が多く出されましたが、その上で「被爆者も二世も三世も支援する立場も一緒に運動を発展させようというのが方向性だ」（田中熙巳代表委員）との発言もありました。

参加者たちはその後核兵器禁止条約に参加を要請する 14 万人分の署名を外務省に提出、署名は累計で約３８２万人分に上りました。

国連軍縮週間で訴える

国連軍縮週間が始まった 10 月 26 日、北海道原水協と札幌地区労連は、札幌駅南口広場で、日本政府に核兵器禁止条約に参加を求める署名と非核三原則の堅持を求める署名への賛同を訴えました。

５歳のとき広島で被爆した被爆者連絡センターの金子廣子さんは、２週間後に亡くなった姉をはじめ家族８名全員が被爆、その後の苦しみを振り返り「私たちの声をもう一回り広げ、核兵器も戦争もない世界を一緒に作りましょう」と訴えました。



金子さんが座ってマイクを握った「空（から）の椅子」（写真）は、条約を批准して日本政府こそがすわってほしいという趣旨、空（から）のままにしておくわけにはいきません。

被爆二世プラスの会会員のつどい、センター役員会を開きます

11 月 15 日（日）、午前９時半～
被爆二世プラスの会
　会員のつどい
午後零時 15 分～
被爆者連絡センター
　第５回理事会
会場はエルプラザ４階中議室